

総務常任委員会視察報告

1. 視察日程 平成26年10月7日（火）～9日（木）
2. 視察場所 青森県十和田市十和田中央病院
秋田県鹿角市役所、総合運動公園
3. 視察参加者 岩尾 育郎 有田 昭二 富来 征一
河野有二郎 渡辺 雄爾
 (随 行) 石堂 誠

4. 視察事項

十和田市立中央病院（経営改善と取組について）

十和田市は青森県東南部に位置し、人口63,000人の市である。十和田市立中央病院は、十和田市とその周辺町村の基幹病院であり、診療科目21科目、病床は379床である。病院は2008年に新築され本館と別館から成り立っている。当該病院も赤字経営に悩まされており、早くから経営改善に積極的に取り組んでいる。

- ① 医師確保対策・・・特色ある医療の展開、待遇改善のための特殊勤務手当の創設、産婦人科医師の負担軽減のため助産師による分娩。
- ② 収入増加対策・・・病院構内駐車場の有料化、医療機器の共同利用による利用率の向上、高度医療機器導入による放射線治療などがん総合診療体制の強化、地域医療支援病院基準など新たな診療報酬項目取得の推進。
- ③ 地域連携・情報発信への取組・・・地域医療連携促進のため、地域医療連携室への事務職員の増員、高度医療機器の共同利用の推進、在宅ホスピスケアにおける医療・福祉・介護の連携。
- ④ 人材育成の取組・・・医療安全及び医療の資質向上のため医療専門職の資格取得をすすめ職員の資質の向上、地域の医療従事者・介護福祉士従事者の研修支援。
- ⑤ 経費削減対策・・・委託業務見直しによる委託費（清掃、警備、保守等）の抑制、コージェネレーションシステムを最大限活用し、光熱水費、燃料費の抑制を図るため、燃料費と電気料金の推移に応じて随意契約の見直し。

委員から「医師の確保はどのように行っているのか」また「経営コンサルタン

トをいれているが結果がでていいのか」といった質問がなされた。病院側から、「医師の確保は弘前大学との連携を強化し、後期研修医受入体制をとっている。」また「経営コンサルタントを入れても今のところ収益は劇的な改善はみられていない」との回答であった。杵築市立山香病院においても、この1～2年赤字が続いている。取り入れるべき取組を提案していきたい。



秋田県鹿角市

鹿角市は秋田県北東部、北東北3県のほぼ中央に位置し、人口33,000人の市である。人口規模は杵築市とほぼ変わらないが、本格的な総合運動競技場、トレーニング場を有しスポーツによるまちづくりを推進し、交流人口の増加を図っている。

スキーと駅伝のまち“賑わい創出プロジェクト”のもと大会や合宿を誘致し、事業実施経費の1.5倍の経済波及効果を達成している。また、合宿を誘致するため以下の事業を行っている。

※鹿角市スポーツ合宿奨励補助事業

スポーツトレーニングを目的として、連続2泊3日以上にわたり市内の宿泊施設を利用して実施する合宿。

補助金の額

- ・一般宿泊施設の場合 1人1泊あたり1,000円
- ・1団体1回あたり上限20万円

合宿の実績としては、宿泊数でH22年度 1,535人、H23年度 2,320人、H24年度 2,422人、H25年度 2,081人。H25年度は若干の落ち込みが見られるが、H26年度9月末で2,400人と順調な増加がみられる。

ただ、問題点としては多くのスポーツ施設の維持管理費に毎年約1億5千万円かかっているとのことであった。

委員より「スポーツ合宿奨励補助により市への経済効果はどれくらいか」、「交流人口はどれくらい増加しているのか」と言った質問がなされた。

杵築市にも文化体育館や杵築市営サッカー場があるが、弁当持参の日帰り客が主で地域経済に貢献しているとは言えない状況である。市内利用者を増やすことはもともとであるが、市外からの合宿を伴うような利用者を増やし、地域経済へ利益を波及させていく必要がある。

